

中高 中高では、昨秋から今冬にかけて、各クラブ活動が全国大会に臨み、大きな成果をあげています。

中学・高校ともに 全国大会で『第1位』獲得

カラーガード部

2025年11月29日、駒沢体育館で開催された「令和7年度ダンスドリル秋季競技大会」において、中学・高校の両カラーガード部が「TALL FLAG部門」に出場し、それぞれ『第1位』を獲得しました。この結果、両チームは全国大会への出場権を得ることができました。

また、1月10日・11日に京王アリーナTOKYOで実施された「Dance Drill Winter Cup 2026」(第17回全国高等学校ダンスドリル冬季大会/第15回全国中学校ダンスドリル冬季大会)でも、中学・高校ともに「TALL FLAG部門」で『第1位』を獲得しました。

さらに、2月1日に高崎アリーナ(群馬県)で行われた「第9回カラーガード・マーチングパーカッション全国大会」には、中学2年生から高校2年生までの18名による合同チームで出場し、『銀賞』に輝きました。夏の大会で一度完成させたショーを、ジャッジシートのコメントをもとに曲の解釈を深め、振り付けを改良して臨んだ今回の演技は、本年度の集大成であり、高校2年生にとっては最後の公式戦となりました。

短期間で異なる演目の全国大会に連続して挑むことは、体力面・技術面・精神面のいずれにおいても大きな負担でした。しかし、友人や保護者の皆さまからの温かな応援、他の部活動からの練習場所の配慮など、多くの支えを力に変え、選手たちは本番で全力を発揮しました。この経験を胸に、選手たちは来年度に向けて新たな一歩を踏み出していきます。



中学: 全国大会含む4つの大会で 『第2位』獲得

チアダンス部

高校: 地区大会『第2位』・『ブルーリボン』獲得 全国大会でも奮闘

中学 2025年11月29日、駒沢体育館で行われた「令和7年度ダンスドリル秋季競技大会」では、SONG/POM部門 Large編成で出場し、『第2位』に入賞。「Dance Drill Winter Cup 2026」への出場権を獲得しました。また、12月27日に行われた「USA Regionals 2026」では、SONG/POM部門 Large編成に出場し、『第2位』で地区大会を突破。3月に行われる「USA Nationals 2026」の全国大会の出場権を獲得しました。

年明けにも大会が続き、1月10日に京王アリーナTOKYOで開催された、全国大会である「Dance Drill Winter Cup 2026」ではSONG/POM部門 Large編成で出場し、『第2位』に入賞しました。そして、1月18日に行われた「Performance Cheer Grand Final」に出場し、POM部門 中学校編成で『第2位』に入賞しました。この大会は、2025年3月に出場した「USA Nationals 2025」で入賞して出場権を獲得した大会でした。初出場した大会で入賞することができ、チーム一同、喜びに溢れました。

高校 2025年11月30日、駒沢体育館で行われた「令和7年度ダンスドリル秋季競技大会」では、SONG/POM部門 Medium編成で出場し、全国大会の出場権を獲得しました。そして、1月10日に開催された「Dance Drill Winter Cup 2026」に出場。また、1月23日には地区大会である「USA Regionals 2026」にSONG/POM部門 Large編成で出場し、『第2位』に入賞。3月に行われる「USA Nationals 2026」の全国大会の出場権を獲得しました。加えて、演技得点も高く、評価の証である『ブルーリボン』を手にすることができ、大きな自信へとつながりました。



中高 監督トークも和やかに 一映画『終点のあの子』校内試写会開催

駒込キャンパスをロケ地として撮影された映画『終点のあの子』(原作: 柚木麻子)の校内試写会が、1月19日に開催され、在校生や教職員など約100名が参加しました。

本作は、海外でも注目を集める柚木麻子氏のデビュー作を原作に、吉田浩太監督が長年温めてきた思いを形にした作品です。撮影では、本校生徒が日常を過ごす制服や教室、校舎の風景がそのまま映し出され、東京を望む屋上や校庭、六義園に面した通学路など、本校ならではの情景も印象的に描かれています。

試写後には吉田監督によるトークショーが行われ、撮影時のエピソードが語られました。また、参加した生徒や教職員からの質問にも丁寧にお答えいただく等、和やかな時間となりました。

本作は1月23日より全国で劇場公開されています。

試写会の
様子は
こちら



Instagram



『終点のあの子』試写会での吉田監督(1段目中央)と参加者

GREEN SPIRITS



次の100年を見据えた 女子教育への思い

文京学院大学女子高等学校
教頭 藤井 亮太郎

2025年4月より、高校教頭として着任いたしました藤井亮太郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

新たな環境で皆さまとご一緒させていただいていることに、少しの緊張と、それ以上に『女子の圧倒的パワーと底力』を感じながら毎日楽しく過ごさせていただいております。

私が前任校から転職を決意した背景には、女子教育への課題意識があります。

近年、内閣府をはじめ社会全体で、女性のライフステージや生き方の多様性が注目されています。しかし、それを単なる知識として知るだけでなく、自らの人生をどう描き、どう豊かにしていくのかを考え続けられる力を育てる場こそが学校であり、とりわけ女子校の役割は今後ますます重要になると感じておりました。

本校が国際教育や理数教育に力を入れ、文系・理系の枠を越えた学びを大切にしている点、何より、その根幹にある伝統の教育に大きな魅力を感じました。AIが浸透する社会の中で、温かい人間性を高めることや考えることを楽しむ経験を積み重ねることで、世界の見え方は確実に変わっていくと考えています。

これまで、経済産業省での取組みや全国の学校との連携、大学・研究機関との協働、管理職の先生方へのインバージョン研修を通して、探究学習や社会とつながる教育に携わってまいりました。今後は、こうした経験を活かしながら、本物体験や学外との学び、教員生徒問わず、いわば越境する教育プログラムをさらに充実させていきたいと考えております。ただし、その軸にあるのは、あくまで日々の校内の授業だと考えておりますので、教室での問いや対話、試行錯誤が活発になるよう様々な実践を共創できればと思っております。

新たな100年を支える教育を、教職員の皆さまと共に、丁寧に形にしていきたいと思っております。まだまだ学ぶ立場ではありますが、誠実に、そして楽しさを軸に学校づくりに取り組んでまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大学

20年の交流の歩みを次代へ… 逢瀬町との連携イベントを開催

1月31日、まちづくり研究センター(まちラボ)は、本郷キャンパスにて、福島県郡山市逢瀬町との交流イベント「逢瀬の日 ひさしがり、逢瀬町。In東京～これまでとこれから～」を開催しました。

本イベントは、20年にわたり続いてきた本学と逢瀬町の都市農村交流の歩みを振り返り、今後の関係づくりを考える場として企画されたものです。

当日は、逢瀬いなか体験交流協議会の地域住民6名を迎え、これまで学生が取り組んできたグリーンツーリズムや農産物販売、文京ワインづくりなどの活動報告が行われました。また、逢瀬町の野菜や加工品の紹介、郷土料理「キャベツ餅」などを楽しむ交流会を通じて、世代や立場を超えた対話が広がりました。あわせて2月に開催される大学生を対象とした農村体験スタディツアーの説明も行われました。

会場には在大学生や卒業生、地域住民など多くの来場者が訪れ、逢瀬町への関心の高さがうかがえる一日となりました。20年の交流で育まれてきた信頼関係を基盤に、本学と逢瀬町はこれからも持続可能な地域づくりに取り組んでいきます。

PHOTO GALLERY
フォトギャラリー



大学

「ヒューマン・データサイエンス学部」 新施設の準備進む

今春4月に開設される新学部「ヒューマン・データサイエンス学部」の拠点として、新施設が本郷キャンパス内に誕生しました。最新の設備を備えた講義室や演習スペースに加え、学生同士や教職員との交流を促す開放的な教室空間を整備。学び・挑戦・協働が自然に生まれる環境の中で、実践的な学修と新たな価値創造を支える施設として、キャンパスの新たなシンボルとなります。



【S館2F】「ものづくりラボ」には、3Dプリンターやレーザー加工機等も設置



【C館7F】音響研究や動画撮影・制作にも使用できる「スタジオ」



【D館6F】講義だけでなくアクティブラーニングも可能な「スカイホール」
壁面には著名人や学識経験者が集っていた地域店舗の記憶が刻まれている



【D館2F】人や対象の動きなどのデータを可視化・数値化する「モーションラボ」

高校

大学

スキルアップ講座で留学生らと交流

文京学院大学女子高等学校では、大学受験を終えた生徒を対象に、1月から「スキルアップ講座」を実施しています。本年度は高大連携の一環として、文京学院大学が3つの語学講座を提供し、GSIグループ(大学の国際交流センター)のチューターや交換留学生が講師を務めました。進学後を見据えた学びを体験できる貴重な機会となっています。

1月19日の「2時間で学ぶ中国語」では、マレーシア出身のチューターが四声や拼音(ピンイン)などの基礎と簡単な会話を指導し、中国語初心者の生徒も楽しく学ぶことができました。

続く1月26日には、アメリカ出身チューターによる「英語でチャット・ラウンジ」を実施。授業で培った英語力を実際に使うことで、会話の楽しさや自信を深めた様子でした。また、同日開講の「2時間で学ぶ韓国語」では、韓国人交換留学生の指導のもとハングルの読み方や日常表現を学習。その後はおすすめの観光地や食文化について語り合い、自然と文化交流が広がりました。

これらの講座は、受験後の時間を有意義に過ごすだけでなく、チューターや留学生との交流を通じて視野を広げる機会として大変好評でした。高校ではそのほかにも、卒業までの学習課題や講演会を用意し、生徒一人ひとりの進学先につながる力を育てています。



▲チューターと交流する生徒

◀中国語講座の様子

大学

幼稚園

「アートフェスタふじみ野2025」開催

2026年1月24日・25日の2日間、音楽とアートの祭典「アートフェスタふじみ野2025」が、「未来へつなぐアートの星」をテーマに、ふじみ野市のふじみ野ステラ・イーストで行われました。本イベントは、アートフェスタふじみ野2025実行委員会が主催、ふじみ野市が共催となっており、本学も協力・協賛として2017年からこの事業の発展に貢献してきました。

クラシックコンサート、歌、演奏、ダンス、パントマイム等のライブパフォーマンス、アートワークショップ、展示会など、約30の企画が実施されました。

ホールでのイベントのオープニングは、ふじみ野幼稚園の年長さん50名による元気な歌声でスタートしました。そして、今年も恒例となり好評をいただいている「小林剛史(人間学部心理学科教授)&渡辺行野(人間学部児童発達学科准教授)によるフルートとピアノ Duo」のほか、21名の人間学部の学生が運営スタッフとして参加しました。親子連れなど、たくさんの来場者が訪れ、鑑賞や体験を楽しむ盛大な催しとなりました。



◀小林先生・渡辺先生のフルートとピアノDuo

ふじみ野幼稚園の園児によるオープニングステージ▼

【重要なお知らせ】

中学校・高等学校の関係者ならびに高等学校卒業生の皆様へ

これまで郵送にてお届けしておりました学院紙「文京学院」ですが、迅速且つ適確な情報の提供と、環境への配慮を図るため、今月号をもって紙媒体の郵送を廃止させていただきます。

今後は文京学院ホームページよりご覧いただけますと幸いです。引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。(中学・高校の在校生につきましては、これまで通り紙媒体にて配布いたします)

学院紙サイトは
こちら



公式ホームページ

文京学院 学院紙

検索

ひたむき・まへむき・おもむき
tomoちゃん

第101回

画:美術部(高校)よつば

